

Ⅵ. ネクサス SC の土壌移行性

試験方法

- ① 真砂土を恒温気 120℃ で十分に水分を飛ばす。
- ② セルロースチューブ（内径 15mm×高さ 350mm）の一端に脱脂綿を詰め、反対側から真砂土を深さ 30cm になるように充填する。
- ③ ネクサス SC50 倍希釈液（実用使用濃度）を 3 ℓ / m² 相当を処理。
- ④ 希釈液処理 1 日後、上部から蒸留水を約 1 ml / 時間で 80 時間（計 80ml）を滴下する。滴下スピードをあらかじめ調整の上、カラム下部には流出水を受ける三角フラスコを設置。
- ⑤ 滴下終了後、表層から 5 cm 毎に土壌を取り分け、各層の有効成分分布を測定。

結果・考察

土壌カラム	有効成分の分布（％）	
	ピリプロール	アセタミプリド
0－5 cm	93.4%	N . D
5－10cm	6.6%	N . D
10－15cm	N . D	N . D
15－20cm	N . D	N . D
20－25cm	N . D	N . D
25－30cm	N . D	N . D
流出水	N . D	100.0%

アセタミプリドは完全に流亡して流出水のみで検出されたが、土壌中の微生物等により速やかに分解される性質を有するため、環境への影響はほとんどないと考えられる。一方、主成分のピリプロールは 5－10cm 層で僅かに検出されたが、過酷な試験条件下でもほとんどが最上層（0－5 cm）で留まることが確認された。従って、ピリプロールは土壌吸着性が高く、雨水等の水分による移行はほとんどなく安定していることが確認された。

Ⅶ. ネクサス SC の土壌中における有効成分残存率測定

ネクサス SC の土壌微生物による影響確認のため、各区土壌中における有効成分残存率の測定試験を行った。

試験方法

- ・ No.11 規格瓶に土壌を分析点数分秤とる。（1 区 3 連制）
- ・ ネクサス SC50 倍希釈液を土壌に定量処理
（± 1kg に対して希釈液 100mL を想定）
- ・ 各サンプルを 20℃ の恒温状態で所定期間保存し、保存後土壌中の有効成分残存率を測定する。